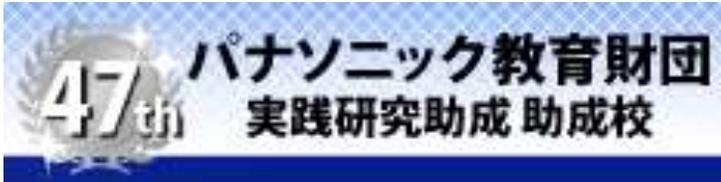


令和3年度研究主題



子供が学びをつくる学校

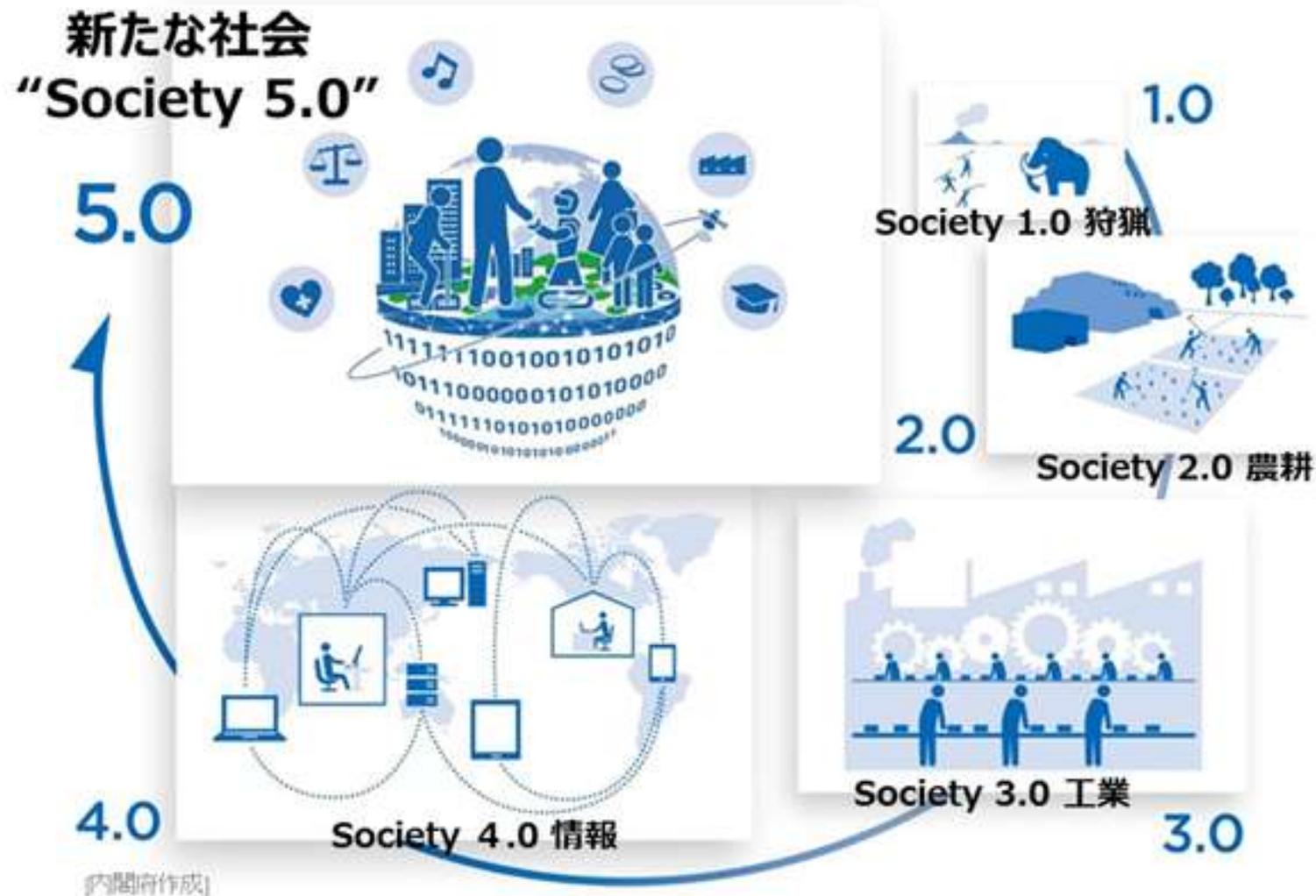
～3年次～



第59回(令和2年度)
下中科学研究助成

令和3年4月5日 研究部

1 はじめに 社会背景



大変革時代

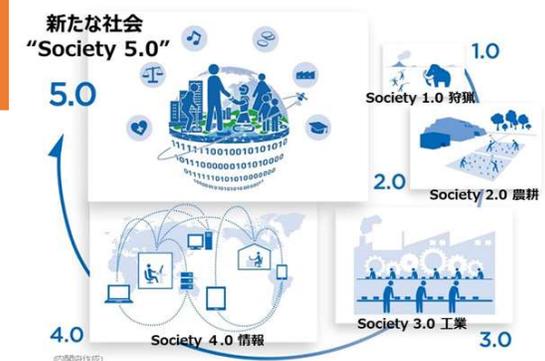
国内外の課題が
増大, 複雑化

厳しい挑戦の時代

変化が激しく将来の予測が困難な時代

子供たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、
よりよい社会を創り出していくことができるよう、
必要な力を確実に育んでいく

学校は、子供が学びをつくる場



内閣府 Society 5.0, 第5期科学技術基本計画 より引用
学習指導要領解説第1章総説 より部分引用
中央教育審議会答申197号p11 より部分引用

「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

「子供の学び」の姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



個別最適な学び
協働的な学び

一体的に充実



主体的・対話的で
深い学び

授業外の学習改善

授業改善

「子供の資質・能力の育成」

個別最適な学び【学習者視点】（＝個に応じた指導【教師視点】）

「子供が自己調整しながら学習を進めていく」

指導の個別化

- ✓ 子供一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、
 - ✓ 教師は必要に応じた重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行う
- 一定の目標を全ての子供が達成することを目指し、異なる方法等で学習を進める



学習の個性化

- ✓ 子供一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、
 - ✓ 教師は一人一人に応じた学習活動や課題に取り組む機会の提供を行う
- 異なる目標に向けて、学習を深め、広げる



協働的な学び

- ✓ 子供一人一人のよい点や可能性を生かし、
 - ✓ 子供同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働する
- 異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す



学校は、子供が学びをつくる場



1 はじめに これまでの研究

附属函館小学校 = 子供が学びの主体者

平成25年 アクティブ・ラーニング

子供が対話的に
学ぶ学習形態

子供の主体性を
引き出す単元構成

平成29年 学びの文脈

教える内容を子供が学びたいと願う
文脈にコーディネート

令和元年 メタ認知

子供が学びをつくる学校の実現



予測困難な時代でも、自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出せる子供



子供が「粘り強く取り組む」「自己を見つめる」「自己調整する」ために目指す姿を共有

「課題設定」「追究方法の選択」「学習成果の発揮・活用」を子供が自分で見つけ、調整する姿

子供が学びを教師が支援

子供が学びをつくる姿の共有



子供が学びをつくる学校の実現



すべての教育活動で「学びをつくる子供」と「それを支える教師」の姿を実現

子供が学びをつくる



子供が学びをつくる

粘り強く取り組む



見つめる

多様な方法から
子供が選択して追究

見つめる

学習成果の発揮, 活用
(パフォーマンス)

子供が願いをもつ

自己調整
する

やってみたい!
できるように
になりたい!

もっとこうした
方がいいね!

もっと学びたい!
こんなこともやってみたい!

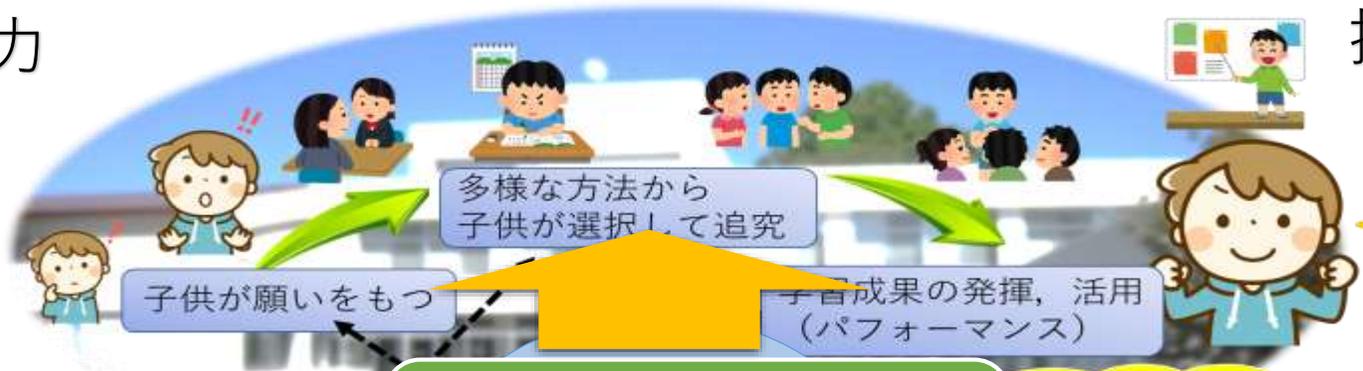
問題発見・解決能力

言語能力

情報活用能力

持続可能な社会をつくる力

各教科等の
資質・能力

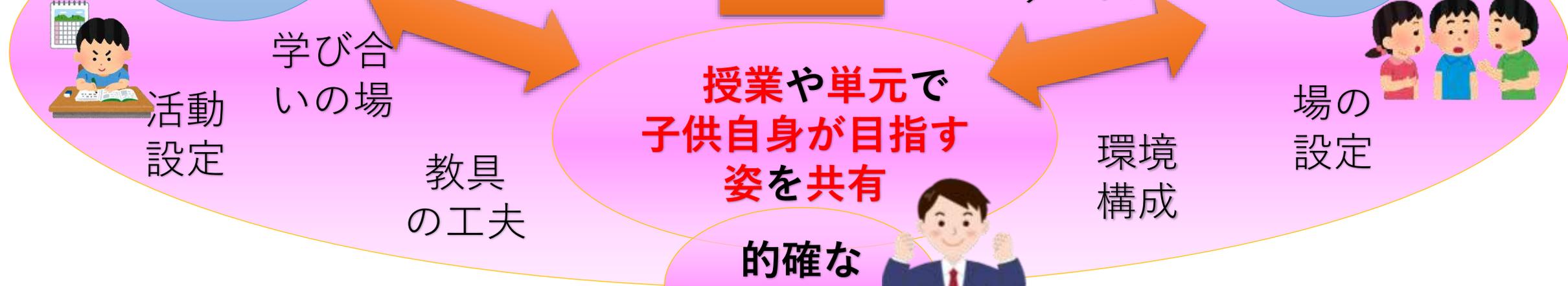


「自己調整する」
 目標や学び方を(再)設定,
 調整, 修正, 概念を再構成

っと学びたい!
 とやってみたい!

「自己を見つめる」
 到達度や学び方, 役割,
 概念構造を振り返る

**「目標に向かって
粘り強く取り組む」**
 目的意識や目標, モチベーション,
 計画, 追究の視点



徹底的な教材分析

**的確な
見取り**

明確な評価規準⁹

一人一人の子供が

学びをつくる



自己調整する

粘り強く
取り組む

自己を
見つめる

目指す姿を
共有

見取り

教材分析

評価規準

学び合
いの場
活動
設定

教具
の工夫

外部リ
ソース

環境
構成

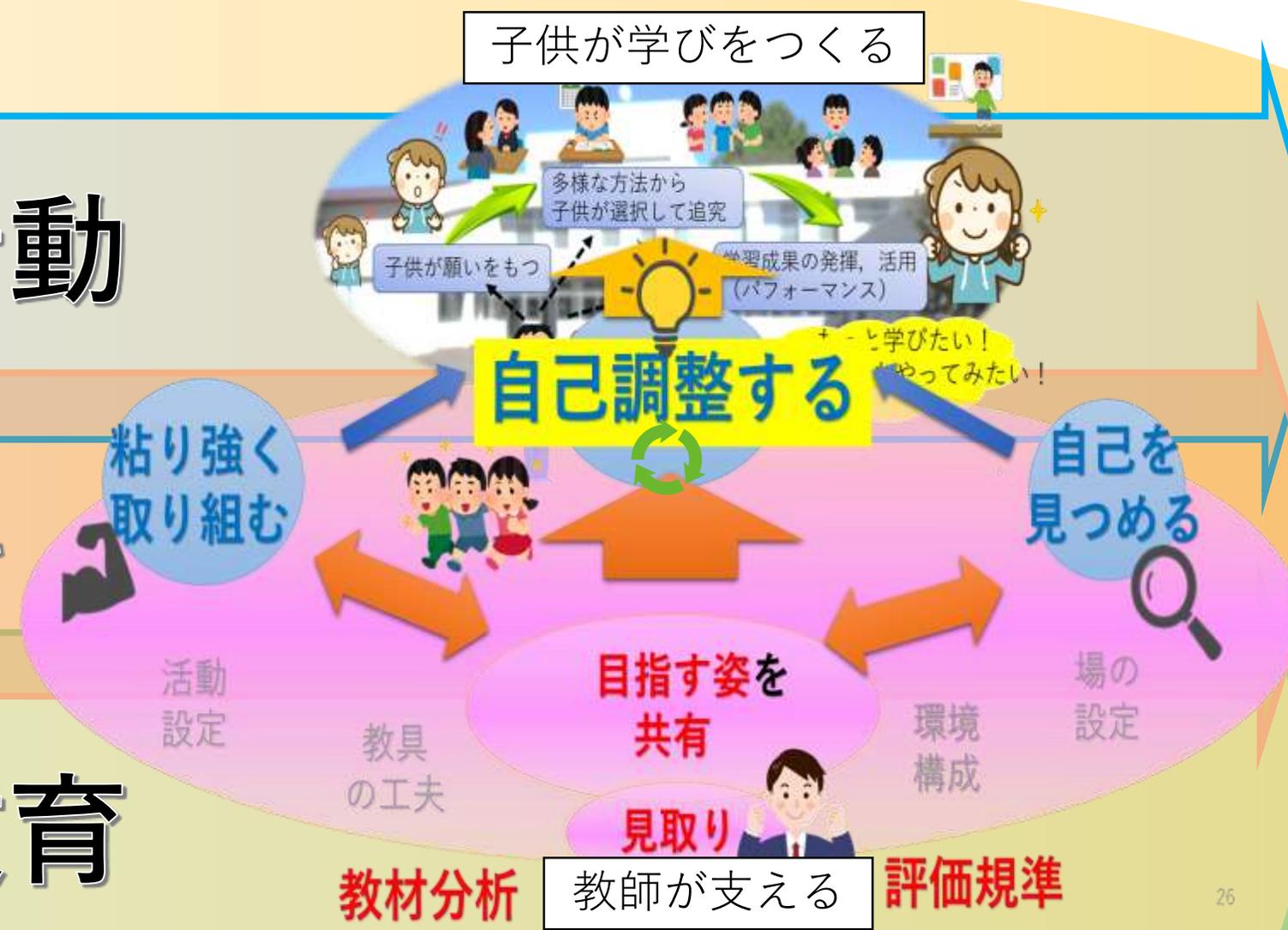
場の
設定

特別活動

教科

心の教育

子供によりそう教師

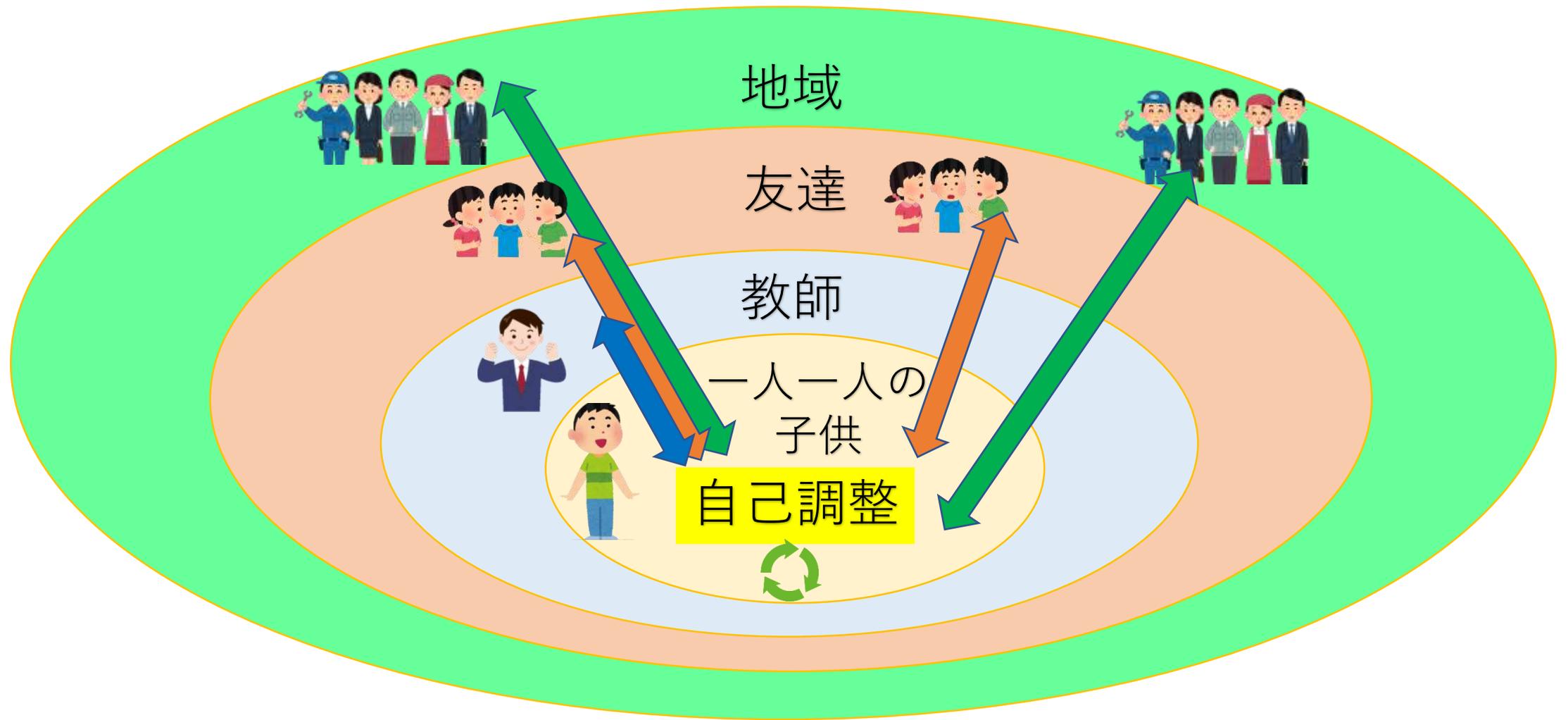


異学年
学年
学級

全教科で
展開！

学校生活
道徳

教育課程， 校内研修の輸出



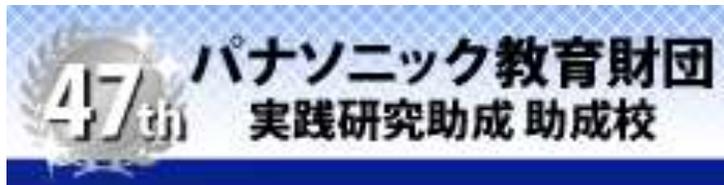
一人一人の子供が **他者**とともに**自己調整**する

令和3年度研究主題



子供が学びをつくる学校

～一人一人の子供が他者ととともに自己調整する学び～



第59回(令和2年度)
下中科学研究助成

令和3年4月5日 研究部

資料編

目指す姿（子供が自己調整し、学びをつくる姿）



子供が学びをつくる 桐の子タイム

～自らをモニタリングし、メタ認知する子供～

桐の子タイム（総合的な学習の時間）の 目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供	
課題設定	<p>実社会や実生活に向き合い、理想状況を実現しようとしたり、課題を解決したりしようとする意識をもち課題を設定する。そして、課題追究のイメージをもつ。</p> <p>(1) 実社会や実生活に向き合い、理想状況を実現しようとしたり、課題を解決したりしようとする意識をもち課題を設定する。</p> <p>① 実社会や実生活に向き合いながら、問題状況を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会や実生活にある学習対象と出会う。 ・ 気づきや疑問を話し合ったり、体験活動や各教科等での学びをもとにししたりしながら、現実状況や自分との関わりについて整理する。 ・ これまでの学びや思い描く理想状況と現実状況とを比較しながら、問題を整理したり、明らかにしたりする。 <p>② 理想状況を実現したり現実状況の問題を解決したりするなど学ぶ目的を明確にもち、個人や全体の課題を設定し、ゴールイメージをもつ。</p> <p>(2) 理想状況の実現や課題解決、目的達成のために必要なことを考え、課題追究のイメージ（プロセスイメージ）をもつ。</p> <p>① 追究（蓄積もきめ）やパフォーマンスの内容、方法、形態を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人と全体との課題のつながりを明確に（他者の課題も捉えながら）追究する。 ・ 学習の見通し・振り返りを行いながら課題解決に向かう。
課題追究	<p>課題を解決する際に、追究内容、追究方法、追究形態を選択し、自力追究する。そして、追究中に自らをモニタリングして、方法や視点を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>(1) 課題を解決する為に、追究方法、追究形態を選択し、自力追究する。</p> <p>① 課題解決の追究方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (情報収集) 観察、実験、見学、調査、探求、追体験等 ・ (整理分析) どのような情報がどの程度収集されているかを把握し、図やグラフ、マップ、思考ツール等に整理しながら分析(比較・分類・関連付け…)していく。 <p>② 課題解決の追究形態の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人追究、ペア追究、グループ追究、全体での意見交流等 <p>(2) 追究中に、自らをモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>① 得られた情報や分析結果の交流・吟味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の入手先や入手経路、整理や分析した結果の妥当性の吟味 <p>② 課題追究の修正・調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した追究方法で足りない部分に気付いて量を増やしたり質を高めたり、限界に気付いて他の追究方法に変更したりする。
パフォーマンス	<p>追究したことをもとに、自己の概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。相手や目的に合わせて、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <p>(1) 自己の考えを整理しながら概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。</p> <p>① 子供一人一人が、自分の言葉や図で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに文章で書く、キーワードを選ぶ、図で表す など <p>(2) 相手意識や目的意識を明確にして、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <p>① 表現内容の吟味</p> <p>② 表現方法（形態）の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート、新聞、ポスターにまとめる。 ・ 写真やグラフ、図を使ってプレゼンテーションとして表現する。 ・ 絵、音楽、劇、ものづくりなど <p>③ 表現媒体の選択・工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現内容に応じた媒体の選択（紙、コンピュータ、自分の身体）



目指す姿を実現する支援例
<p>【子供が課題意識を高める学習対象との出会いの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に子供の発達や興味・関心を把握し、これまでの子供の考えとの「ずれ」や「隔たり」、「憧れ」、「可能性」を感じさせるよう、他教科等もきめて社会、自然、人をイメージするような資料や話題提示をしたり、直接関わる体験活動を設定したりする。 ・ 子供たちが他教科等もきめたこれまでの学びや自分の関わりを想起したり、自分たちの気づきや疑問、予想を交流したりするよう促し、理想状況やゴールイメージを共有し、必要感をもって学習に取り組むことができるよう支援する。 <p>【子供が学習の見通しをもてるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習対象の理想状況の実現や課題の解決に向けて必要なことを子供と一緒に明らかにする。学習対象の性質や単元構成、子供の発達段階に応じて、あらかじめ計画するゴールやプロセスの範囲は変化するため、これまでの学びで、どのような課題、追究内容・方法・形態があったのか確認し、イメージを膨らませることができるようにする。
<p>【子供の多様な追究内容、方法、形態を保障する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科等やこれまでの学びを生かして、設定した課題を追究するには、どのような方法が考えられ、ふさわしいと思うか判断できるようにする。どのような情報をどのような方法で収集し、どのように蓄積するのかなどの計画・準備を促す。 ・ 課題の難易や量から、個人かペア、グループか等子供が判断することを保障する。その為に、学習経験を積み重ねられるようにする。追究結果を視覚的に捉えられるように掲示物等学習環境を工夫する。 <p>【追究方法などを子供が適時判断し、調整するよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 追究中に、自分の追究を振り返ることができるように、ペアやグループ、全体で交流したり、他者から話を聞いたりすることを必要に応じて設定する。 ・ 得られた情報の価値に気づいたり、整理分析を通して考えを形成したりすることができるよう、教師と一緒に考えたり、問いかけたり、板書に位置付けたりする。
<p>【子供が概念を形成し、自己の生き方を考え続けることができるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に考えを表現するように振り返りシートの工夫をする。教師は考えの根拠を問いかけたり、協働的な学び合いの場を設定したりして、子供が繰り返し考えたり、思考を整理できるようにする。 <p>【自力追究結果を子供が表現できるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理想状況の実現や課題解決に向けた追究の過程や結果を他者に伝えるために、表現する内容や方法が子供が自ら考えるよう促す。 ・ コンピュータ活用や身体的な表現もきめて既習の表現方法から選択し、国語科や各教科等身に付けた力を発揮することができるよう、学びを積み重ねていく。

これまでの各教科等の目指す姿を更新☆

特別活動の目指す姿や教師の支援例を作成し、見える化する☆

明確な評価規準

単元における「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けた子供の姿を明確にする☆

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>「働くこと」を分析し、多様な構成要素があることを理解している。分析する方法を身に付けている。</p>	<p>働く人の思いを表現したり、自分や他者と比較したりしながら、「働くこと」の概念をまとめ、図や言葉で表現することができる。</p>	<p>自分なりの「働くこと」についての概念を更新し続け、これからの生活に生かそうとしている。</p> <p>① これから自分が歩む道や働く大人の気持ちを想像したりしながら、「働くこと」に関心を持ち、学習や追究方法について考え、身近な大人の「働くこと」を明らかにしようとしている。</p> <p>② 自ら話のキーワードの関連やまとまりを見いだして伝えたり、他者の考えと比較しながら身近な大人の働くことをもう一度考えようとしたりしている。</p> <p>③ 自分の「働くこと」を追究しようと粘り強く取り組み、途中で到達度や学び方を振り返ったり修正したりしようとしている。</p> <p>④ 自分の「働くこと」を明らかにし、これからの生活で意識したり、考え続けたりしようとしている。</p>

授業や単元で子供が目指す姿を共有

単元における「授業や単元で子供自身が目指す姿」 & 「教師の関わり」☆

	第3時で 子供自身が目指す姿 (実習生との話を終 えて)	教師の関わり	第1.2時	教師の関わり	第1.5時	教師の関わり
児童 ① S・S	働くとは、人のためになると思うけど、他の人の夢や働くことについて聞いて考えを深めたい。	人のためになることとか、それ以外に感じることであった？	趣味や仕事を仕事にしたいけど、いいことばかりじゃない？	自分のため・他人のためで分けると自分はどっち？	出会いによって、自分の世界が広がるけど、勉強や知識、お金も大切。家族以外にも聞きたい。	勉強や知識、お金をどんなことに生かしたい？
児童 ② S・K	自分自身の働くことについて、イメージを広げたい。大変だけど、その中で自分の喜びを見付けたい。	自分で共感できる部分はどこ？ どうして？	今までは個人個人を考えていたけど、全体でまとめてやるとどうなるのか。	全体でまとめると、どんなことに気付いたかな？	声優さんの話を聞いて、働くことはよりよく生きることだと思うけど、そのためにはお金も大切だと感じた。	収入も大切だよ。自分はどんなふうに働きたい？
児童 ③ Y・A	お金を稼げればいい。マイナスな所をもっとはっきりさせたい。	お金以外のキーワードってある？どんなマイナスがあった？	自分のために働きたい。それぞれの自分のためを見付ける。	他人のために働くっていう考え方についてどう思う？	お金がないと生きていけないけど、働くストレスを考えると、好きで明るく仕事をした方が…	お金以外にも大切にしたいことって、自分が楽しむこと？

高学年への
あこがれ

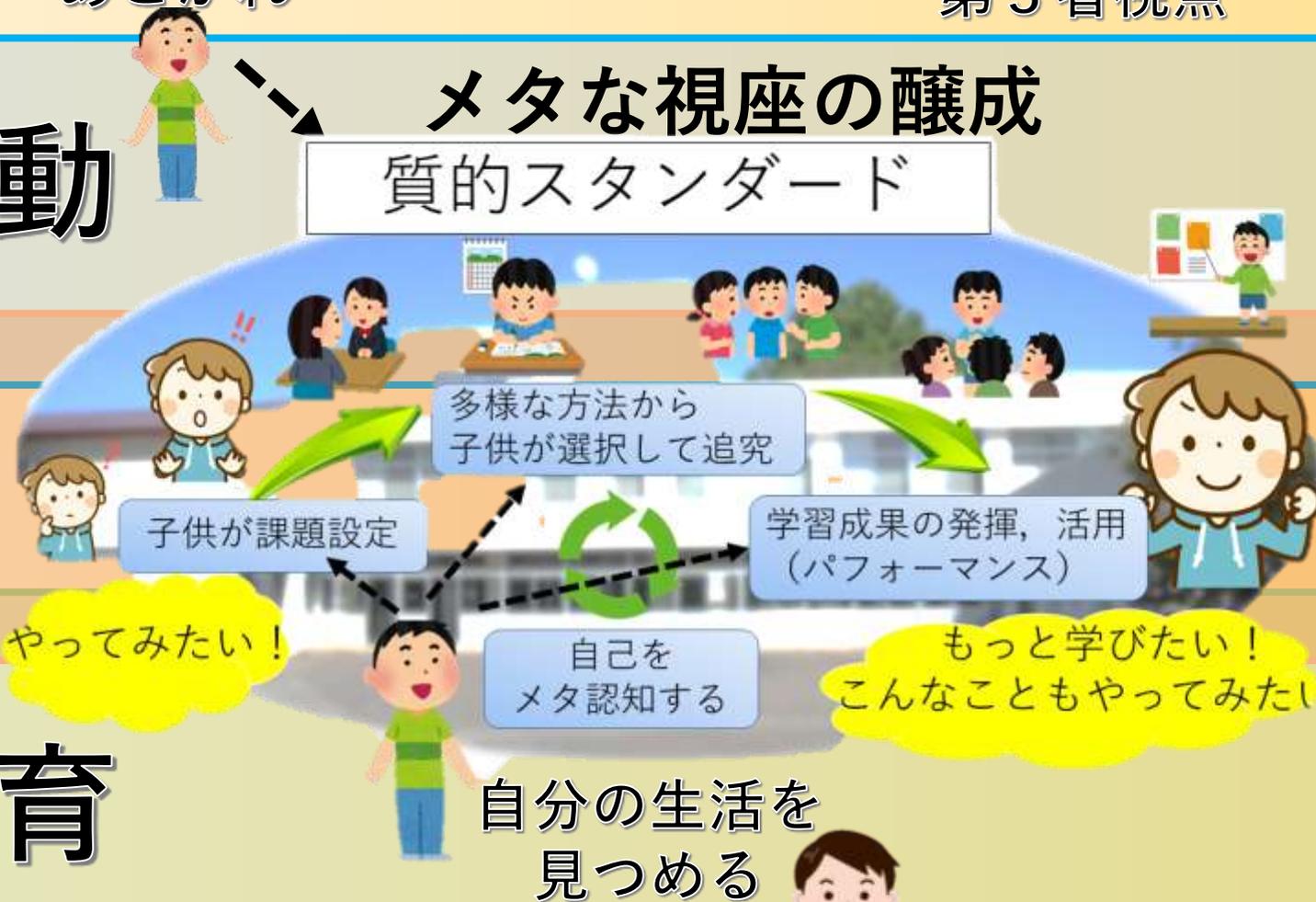
先輩である自覚
第3者視点

特別活動

メタな視座の醸成 質的スタンダード

教科

心の教育



異学年
学年
学級

全教科で
展開!

学校生活
道徳

子供によりそう教師

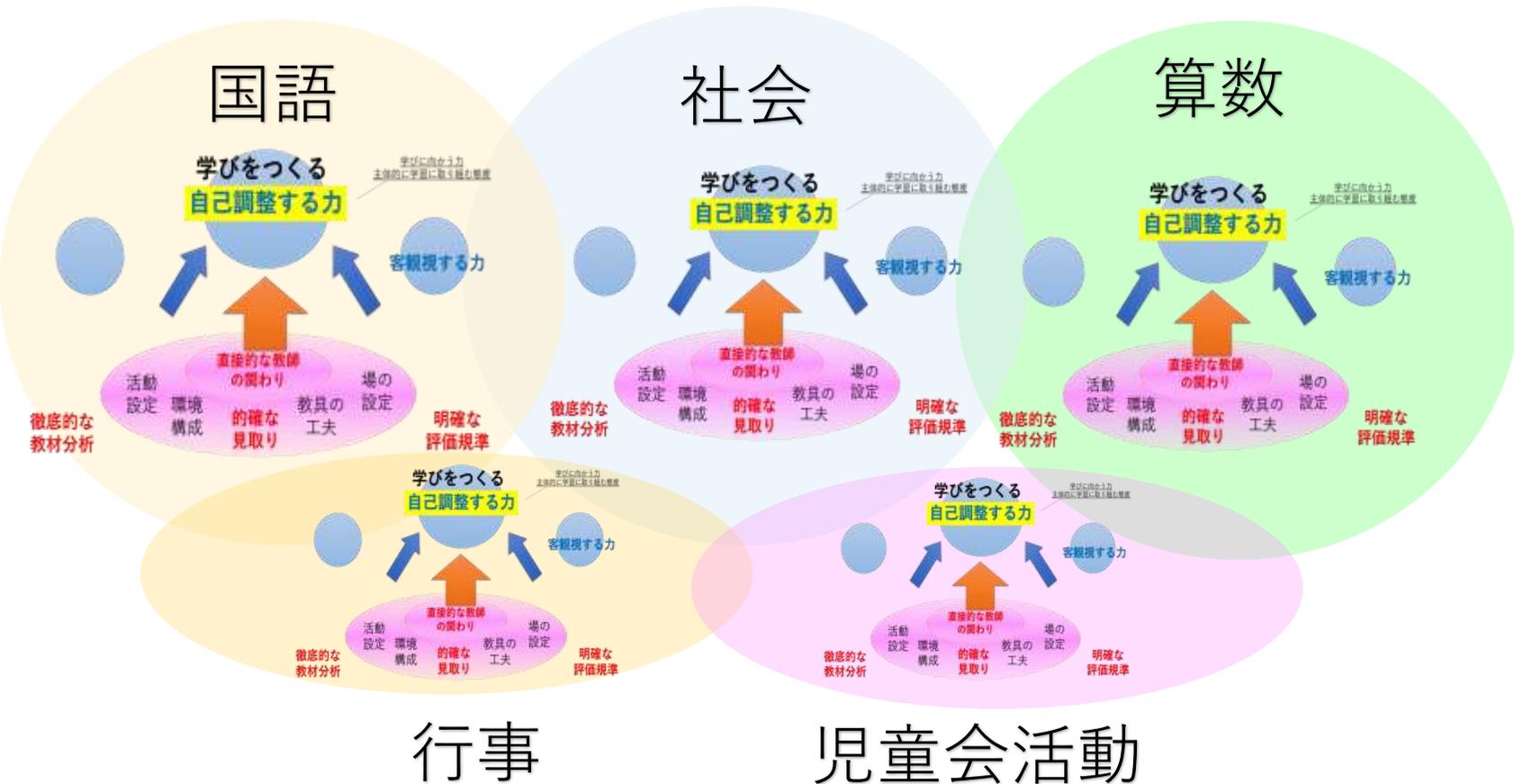


教育課程, 校内研修の輸出

特別活動で実現！

..... 各教科で実現！

.....



行事

児童会活動

教師 の関わり

目指す
子供の姿

実際の
子供の姿

目指す
子供の姿

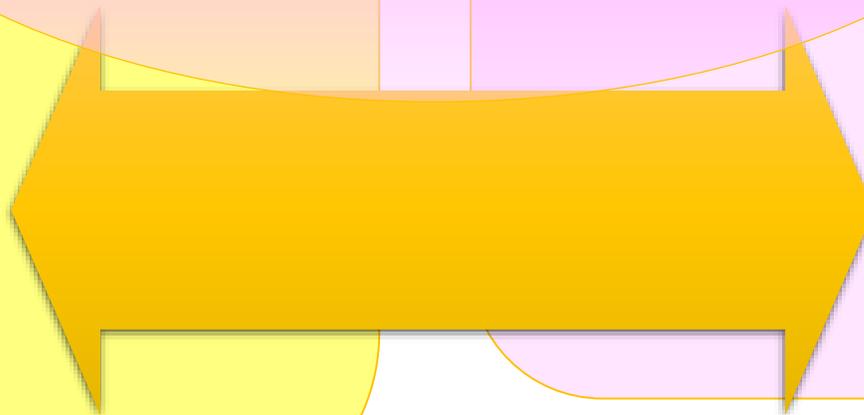
教師
の関わり

実際の
子供の姿

目指す
子供の姿

教師
の関わり

実際の
子供の姿

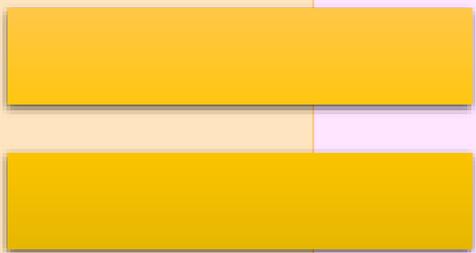


目指す
子供の姿

教師
の関わり

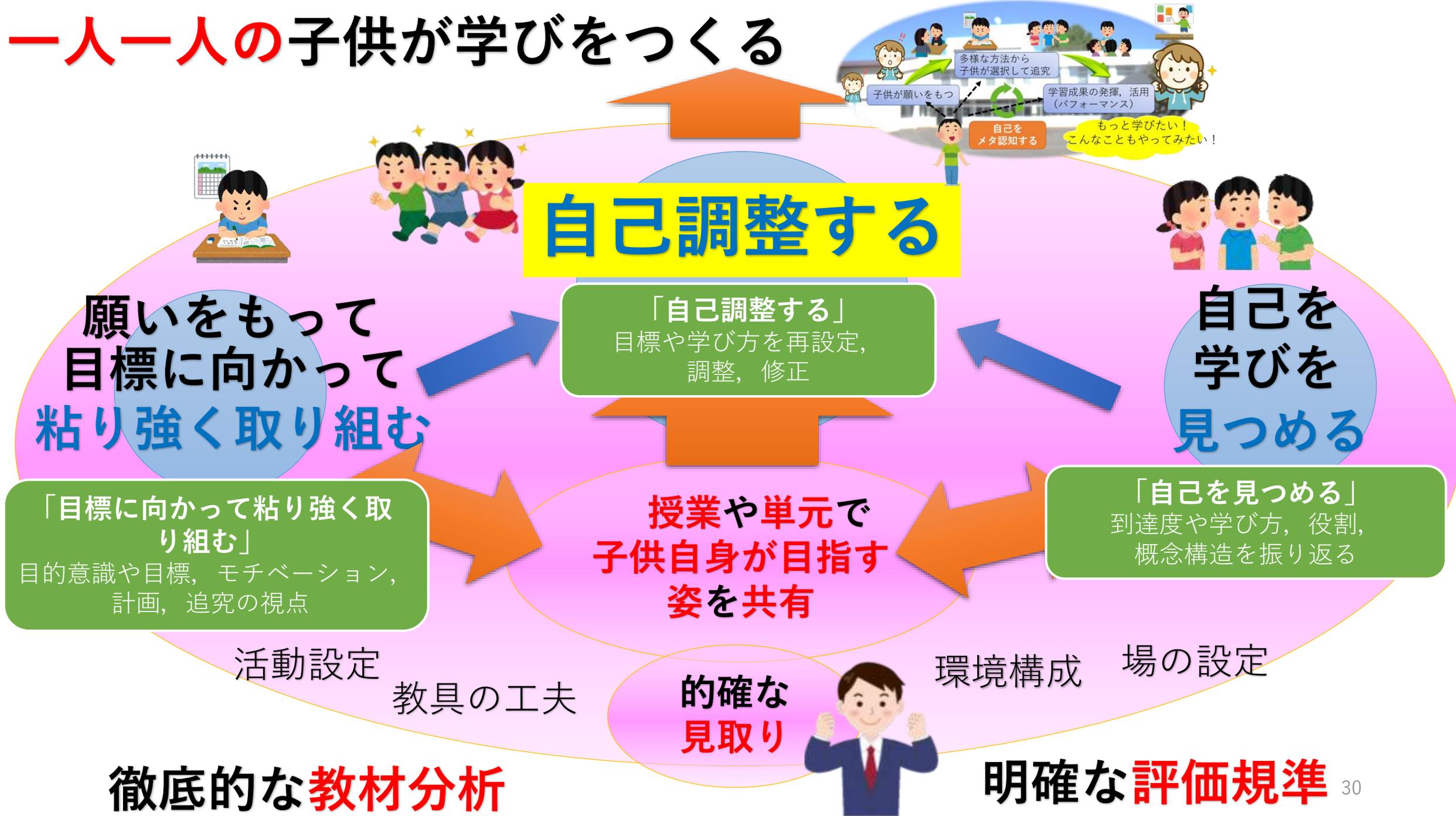
実際の
子供の姿

目指す
子供の姿



実際の
子供の姿

一人一人の子供が学びをつくる



自己調整する

「自己調整する」
目標や学び方を再設定、
調整、修正

自己を見つめる

「自己を見つめる」
到達度や学び方、役割、
概念構造を振り返る

目標に向かって粘り強く取り組む

「目標に向かって粘り強く取
り組む」
目的意識や目標、モチベーション、
計画、追究の視点

授業や単元で
子供自身が目指す
姿を共有

的確な
見取り

活動設定

教具の工夫

環境構成

場の設定

徹底的な教材分析

明確な評価規準



一人一人の子供が学びをつくる

学びに向かう力

主体的に学習に取り組む態度



自己調整する



粘り強く 取り組む

見つめる

授業や単元で
子供自身が目指す
姿を共有

場の設定

活動設定

教具の工夫

環境構成

的確な
見取り



徹底的な教材分析

明確な評価規準



自己調整する

粘り強く
取り組む

自己を
見つめる

目指す姿を
共有

見取り

教材分析

評価規準

活動
設定

教具
の工夫

環境
構成

場の
設定

多様な方法から
子供が選択して追究

子供が願いをもち

学習成果の発揮, 活用
(パフォーマンス)

もっと学びたい!
やってみたい!



子供一人一人が学びをつくる

学びに向かう力

主体的に学習に
取り組む態度



子供が学びをつくる学校

子供が学びをつくる学校

自己を見つめ、願いを実現する子供！

できたぞ！
こんなこともしたい！

もっとこうしてみよう！

こうなりたい！
こうしたい！

これでいいのかな…

学習成果の発揮，活用
(パフォーマンス)

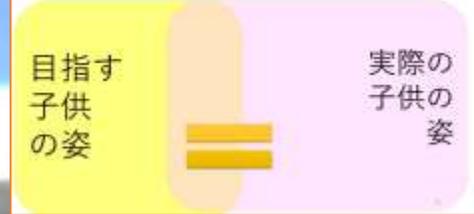
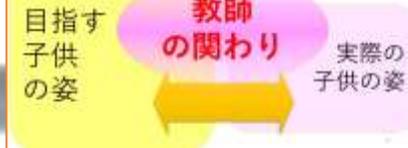
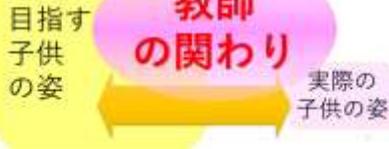
ゴールの姿

日常

他教科

子供が願いをもつ

多様な方法から
子供が選択して追究



これまでの学び・経験

願いをもつための支援

目的意識 粘り強さ
モチベーション 追究の視点

子供が自己をみつめるための活動・場の設定

到達度や学び方，役割，概念構造



子供の選択を促す相互評価や教師の関わり

調整 修正 変更

教師の徹底した教材分析・明確な評価規準をもとにした子供の見取り

子供主体の学びを支える教師の関わり！

子供が学びをつくる



- ・教材分析による本質の理解
- ・目指す子供の姿
- ・実際の子供の姿

子供が学

- ・子供が自己を見つめる場面や支援を設定
- ・子供が自己を見つめる姿を把握し、目標や計画、方法、活動を修正できるように関わる



☆ 子供と一緒に学習計画や目標を立てる

☆ 動画やルーブリックで自分の到達度、友達のよさを把握するようにする

☆ 教師の働きかけや友達同士の関わりによって自分の目標や活動を修正する

・英語で函館のオススメ紹介！

・英語での会話を練習！

・もっと英語でコミュニケーション！

こんな目標にしよう！
子供が自己を見つめ修正する

表現の仕方を変えよう！

子供が実現する！
達成する！

子供が願いをもって粘り強く取り組む

ヘレナさんとの出会い

前單元までの表現

次なる学び

実際の会話



子供が学びをつくる学校

学びをつくる

子供が実社会や実生活，教科の学習の中から願いをもち
実現に向けて，自己をみつめて多様な方法から選択して解決する力

自己の願い

目的や見通しをもって粘り強く取り組もうとする子供自身の思い

自己をみつめる

子供が自らの学びを客観視し，到達度，学び方，役割を捉えたり
価値づけたりして，次の学習に生かそうとする姿

それを支える教師の関わり！

高学年への
あこがれ

先輩である自覚
第3者視点

特別活動

メタな視座の醸成 質的スタンダード

教科



心の教育

異学年
学年
学級

全教科で
展開!

学校生活
道徳

子供によりそう教師



教育課程, 校内研修の輸出

子供が学びをつくるゴールの姿

子供が願いをもつ

実社会や実生活，教科の学習の中から
目的や見通しを見いだすことができる。

多様な方法から
子供が選択して追究

問題状況を解決する方法を多様にもっている。
解決方法を目的に応じて選択できる。
情報と情報の関係を整理・分析できる。

学習成果の発揮，活用
(パフォーマンス)

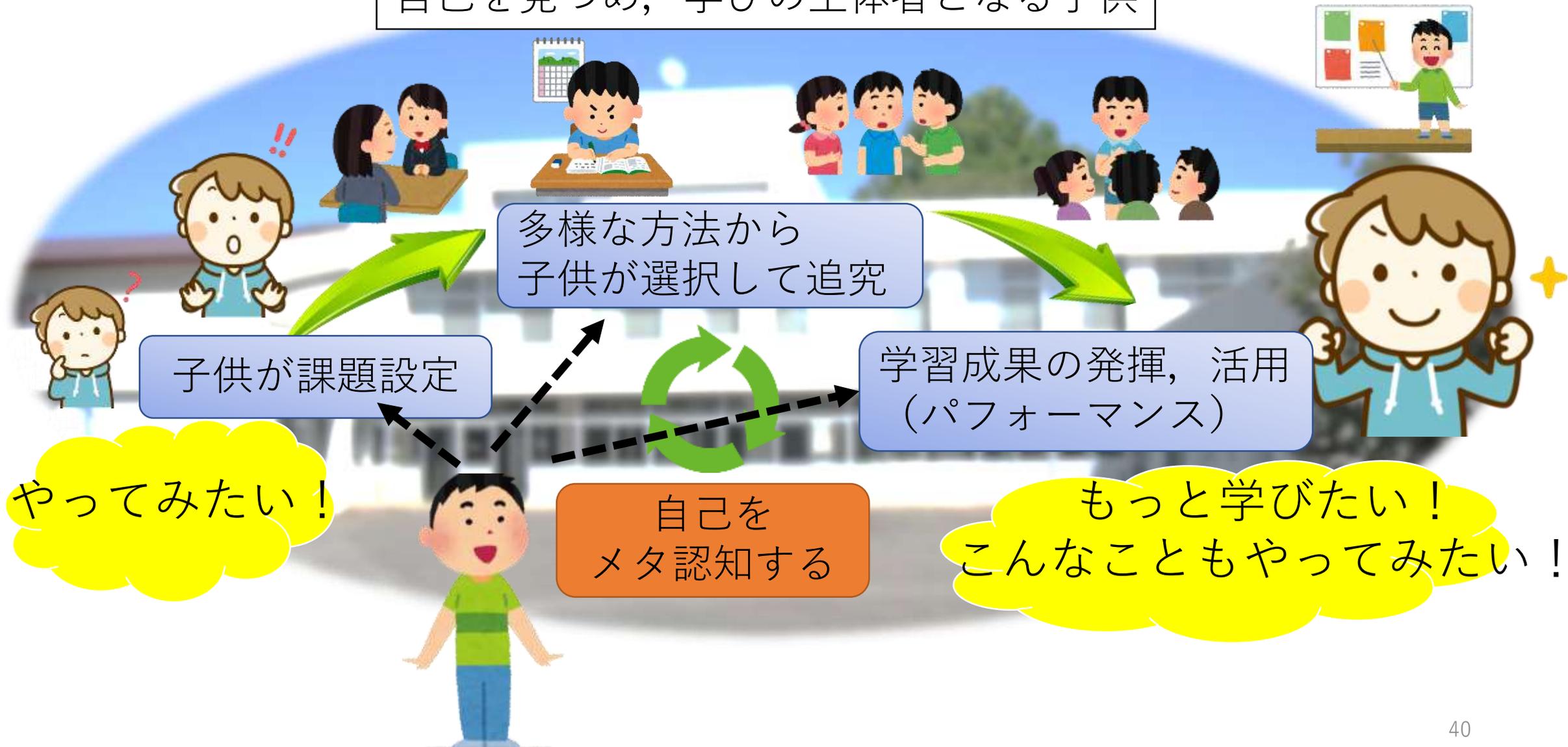
目的に応じて自分の考えが伝わるよう表現できる。

自己をメタ認知する

自分を自分で客観視できる。
課題に関わる概念の形成。

子供が学びをつくる

自己を見つめ、学びの主体者となる子供





桐の子タイム（総合的な学習の時間）の 目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供	
課題設定	<p>実社会や実生活に向き合い、理想状況を実現しようとしたり、課題を解決したりしようとする意識をもち課題を設定する。そして、課題追究のイメージをもつ。</p> <p>(1) 実社会や実生活に向き合い、理想状況を実現しようとしたり、課題を解決したりしようとする意識をもち課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 実社会や実生活に向き合いながら、問題状況を整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実社会や実生活にある学習対象と出会う。 ・ 気づきや疑問を話し合ったり、体験活動や各教科等での学びをもとにしたりしながら、現実状況や自分との関わりについて整理する。 ・ これまでの学びや思い描く理想状況と現実状況とを比較しながら、問題を整理したり、明らかにしたりする。 ② 理想状況を実現したり現実状況の問題を解決したりするなど学ぶ目的を明確にもち、個人や全体の課題を設定し、ゴールイメージをもつ。 <p>(2) 理想状況の実現や課題解決、目的達成のために必要なことを考え、課題追究のイメージ（プロセスイメージ）をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 追究（蓄積も含め）やパフォーマンスの内容、方法、形態を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人と全体との課題のつながりを明確に（他者の課題も捉えながら）追究する。 ・ 学習の見通し・振り返りを行いながら課題解決に向かう。
課題追究	<p>課題を解決する際に、追究内容、追究方法、追究形態を選択し、自力追究する。そして、追究中に自らをモニタリングして、方法や視点を変えたり、焦点化したりする。</p> <p>(1) 課題を解決する為に、追究方法、追究形態を選択し、自力追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 課題解決の追究方法の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ (情報収集) 観察、実験、実証、見学、調査、探索、追体験等 ・ (整理分析) どのような情報がどの程度収集されているかを把握し、図やグラフ、マップ、思考ツール等に整理しながら分析（比較・分類・関連付け…）していく。 ② 課題解決の追究形態の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人追究、ペア追究、グループ追究、全体での意見交流等 <p>(2) 追究中に、自らをモニタリングして、追究方法を変えたり、焦点化したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 得られた情報や分析結果の交流・吟味 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の入手先や入手経路、整理や分析した結果の妥当性の吟味 ② 課題追究の修正・調整 <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した追究方法で足りない部分に気付いて量を増やしたり質を高めたり、限界に気付いて他の追究方法に変更したりする。
パフォーマンス	<p>追究したことをもとに、自己の概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。相手や目的に合わせて、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。</p> <p>(1) 自己の考えを整理しながら概念を形成し、日常生活の場面や次の学びへ生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 子供一人一人が、自分の言葉や図で整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートに文章で書く、キーワードを選ぶ、図で表す など ② 相手意識や目的意識を明確にして、既習の表現方法から選択して伝わりやすく構成して表現する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 表現内容の吟味 ② 表現方法（形態）の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート、新聞、ポスターにまとめる。 ・ 写真やグラフ、図を使ってプレゼンテーションとして表現する。 ・ 絵、音楽、劇、ものづくりなど ③ 表現媒体の選択・工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・ 表現内容に応じた媒体の選択（紙、コンピュータ、自分の身体）



目指す姿を実現する支援例	
課題設定	<p>【子供が課題意識を高める学習対象との出会いの工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に子供の発達や興味・関心を把握し、これまでの子供の考えとの「すれ」や「隔たり」「憧れ」「可能性」を感じさせるよう、他教科等も含めて社会、自然、人をイメージするような資料や話題提示をしたり、直接関わる体験活動を設定したりする。 ・ 子供たちが他教科等も含めたこれまでの学びや自分の関わりを想起したり、自分たちの気づきや疑問、予想を交流したりするよう促し、理想状況やゴールイメージを共有し、必要感をもって学習に取り組むことができるよう支援する。 <p>【子供が学習の見通しをもてるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習対象の理想状況の実現や課題の解決に向けて必要なことを子供と一緒に明らかにする。学習対象の性質や単元構成、子供の発達段階に応じて、あらかじめ計画するゴールやプロセスの範囲は変化するため、これまでの学びで、どのような課題、追究内容・方法・形態があったのか確認し、イメージを膨らませることができるようにする。
課題追究	<p>【子供の多様な追究内容、方法、形態を保障する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他教科等やこれまでの学びを生かして、設定した課題を追究するには、どのような方法が考えられ、ふさわしいと思うか判断できるようにする。どのような情報をどのような方法で収集し、どのように蓄積するのかなどの計画・準備をするよう促す。 ・ 課題の難易度や量から、個人かペア、グループか等子供が判断することを保障する。その為に、学習経験を積み重ねられるようにする。追究結果を視覚的に捉えられるように掲示物等学習環境を工夫する。 <p>【追究方法などを子供が適時判断し、調整するよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 追究中に、自分の追究を振り返ることができるように、ペアやグループ、全体で交流したり、他者から話を聞いたりすることを必要に応じて設定する。 ・ 得られた情報の価値に気づいたり、整理分析を通して考えを形成したりすることができるよう、教師と一緒に考えたり、問いかけたり、板書に位置付けたりする。
パフォーマンス	<p>【子供が概念を形成し、自己の生き方を考え続けることができるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的に考えを表出するように振り返りシートの工夫をする。教師は考えの根拠を問いかけたり、協働的な学び合いの場を設定したりして、子供が繰り返し考えたり、思考を整理するようにする。 <p>【自力追究結果を子供が表現できるよう支援する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理想状況の実現や課題解決に向けた追究の過程や結果を他者に伝えるために、表現する内容や方法を子供が自ら考えるよう促す。 ・ コンピュータ活用や身体的な表現も含めて既習の表現方法から選択し、国語科や各教科等で身に付けた力を発揮することができるよう、学びを積み重ねていく。

メタ認知の概略

メタ認知Metacognition

私たちがしている「分かろうとする」活動を自分で「分かる」ようにして、捉えること。

メタ認知の活動

モニタリング【自己を見つめる】

- ここ分からん . . . 気付き
- お！何か分かった！ . . . 感覚
- これなら5分でいけそう。
. . . 予想
- このやり方でいいのか？
. . . 点検

コントロール【自己の目標や活動を修正する】

- ここが分からないから、
まずは大体を捉えよう。
. . . 目標・計画設定
- このやり方では駄目だ。
違う方法でやってみよう。
. . . 修正

客観視

自己をメタ認知する。
(メタな視座)

自分の行動・思考を
モニタリングしようとしている。

集団の中での自己を
捉えたり、集団の特徴
を捉えたりする。

課題追究
解決方法を目的に応じて
選択し、追究できる。

高学年

課題設定
日常生活と学習内容を結び
付けて、問いをもっている。

パフォーマンス
目的に応じて自分の考え
が伝わるよう表現できる。

他者と自分を比較して、
自己を捉えようとする。

活動が成功・失敗した理由に
気付くことができる。
・ 活動の順序
・ 目的と活動の一致度合い。

課題追究
自分の思いや考えが明確になるように説明
したり表現したりする方法を身に付ける。

中学年

課題設定
日常生活や経験したこと
などから、問いを見出し
たり、選んだりできる。

パフォーマンス
自分の思いや考えが明確
になるように説明したり
表現したりする方法を身
に付ける。

他者の思いや考えを
受け止め、理解しよ
うとする。

メタ認知を促進し、
その基盤となる。

自分がしていること、
したことを言葉等
で表現する。

課題追究
問題状況を解決する個人
及び小集団の方法の獲得

低学年

課題設定
身近なことや経験したこ
となどに、問いをもとう
としている。

パフォーマンス
自分の思いや考えが明確
になるように説明したり
表現したりしようとする。

自分の思いが他
者に伝わっている
かどうか考える。

他者意識

教科・単元の本質

徹底的な教材分析

明確な評価規準
の策定

子供が明確な
目標をつくる
(必然性・見通し)

目指す
子供の姿

評価規準に沿って
子供を見取る

子供自身が
自己を見つめる

実際の
子供の姿

子供が願いをもつ

子供が粘り強く取り組む

多様な方法から
子供が選択して追究

自己をメタ
認知する

子供が調整・修正する

学習成果の発揮, 活用
(パフォーマンス)

教科・単元の本質

徹底的な教材分析

明確な評価規準
の策定

子供が明確な
目標をつくる
(必然性・見通し)

目指す
子供の姿

評価規準に沿って
子供を見取る

子供自身が
自己を見つめる

実際の
子供の姿

子供が粘り強く取り組む

教師の支援

構想・場の設定

働きかけ

教師がどのように
関わるか

学習成果の発揮, 活用
(パフォーマンス)

子供が学びをつくる学校 ～学びの主体者として、 自己の願いを実現する子供～



次なる学び

子供が
実現！
達成！



子供が願いをもつ

☆ 子供が目的や見通しをもって粘り強く取り組むための支援

プランニング

学ぶ
必要感



・追究の視点や
方略のイメージ

・ゴールの
イメージ

・自己の
イメージ

子供が自己を見つめ、学びを修正する

☆ 子供が自己を見つめ、到達度、学び方、役割を捉える場面や活動の設定と教師の見取り

モニタリング

コントロール

☆ 子供が目標や活動を修正するための教師の関わり

軌道
修正

試行
錯誤

内容の関連



子供が 表出！

教師の話題・資料提示

日常の気付き・問い

これまでの学びを振り返る

☆ 子供が自己を見つめ、到達度、学び方、役割を捉える場面や活動の設定と教師の見取り

子供が 表出！



会話・動き
の撮影



発言・伝え合い



考えを記入



交流



振り返りの集約



学びの
チェック

氏名	性別	学年	学習内容	到達度	学び方	役割
山田太郎	男	3年	算数	理解	積極的	リーダー
佐藤花子	女	3年	国語	読解	聞き手	記録係
鈴木健一	男	3年	理科	実験	観察	実験員
田中真由美	女	3年	社会	理解	話し手	発表者
高橋誠二	男	3年	英語	発音	聞き手	聞き手
伊藤あかり	女	3年	音楽	演奏	参加	演奏者
渡辺大輔	男	3年	体育	運動	参加	選手
小林さくら	女	3年	美術	制作	参加	制作員
中村拓也	男	3年	総合	学習	参加	参加者
清水美穂	女	3年	算数	理解	聞き手	聞き手
山本健太	男	3年	国語	読解	話し手	話し手
松本あゆみ	女	3年	理科	実験	観察	観察員
佐々木大輔	男	3年	社会	理解	聞き手	聞き手
高橋さくら	女	3年	英語	発音	聞き手	聞き手
伊藤拓也	男	3年	音楽	演奏	参加	演奏者
渡辺あかり	女	3年	体育	運動	参加	選手
小林大輔	男	3年	美術	制作	参加	制作員
中村美穂	女	3年	総合	学習	参加	参加者

教師が 把握！

関わる！

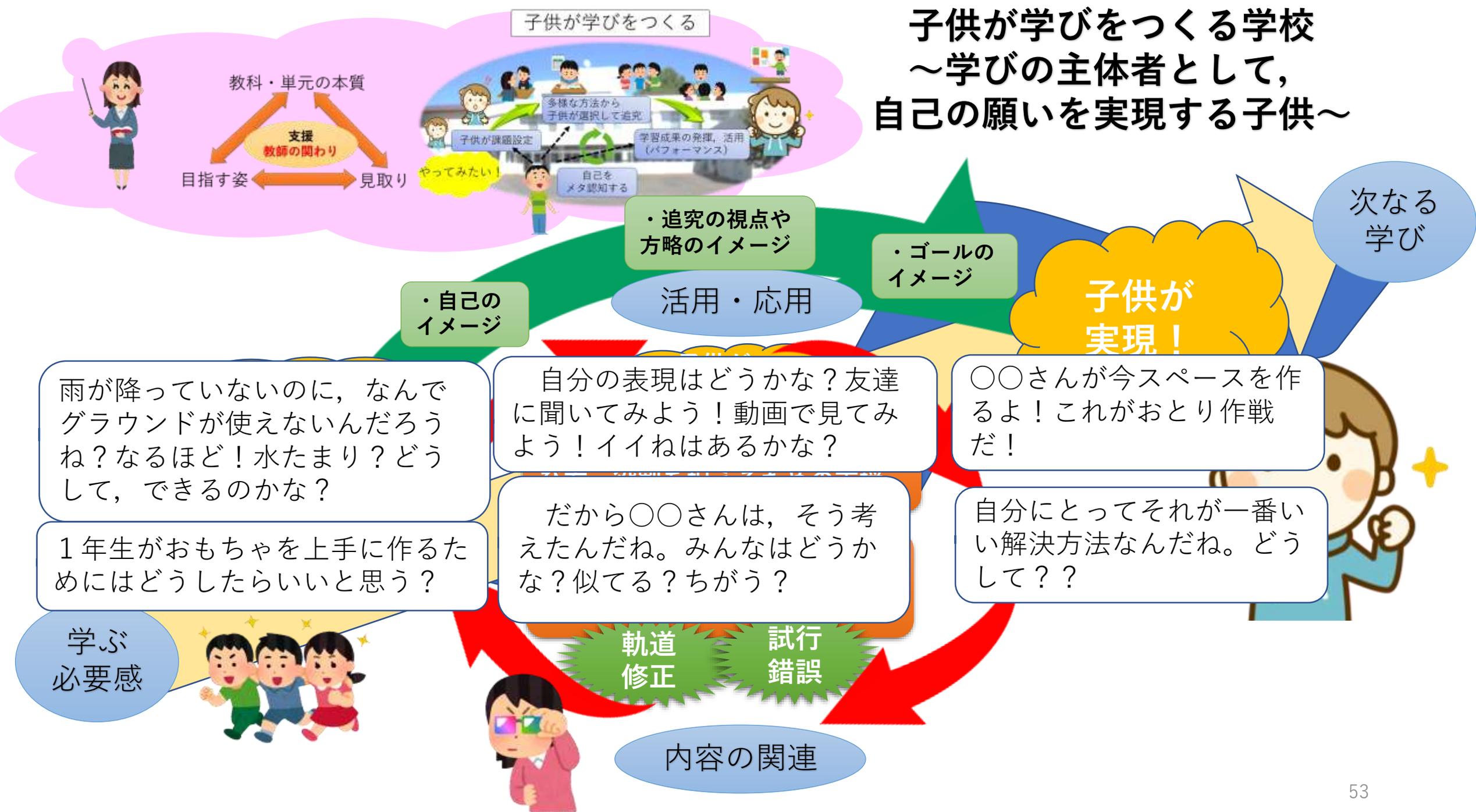


教師の問いかけ
教師の価値付け

☆ 子供が目標や活動を修正するための教師の関わり



子供が学びをつくる学校 ～学びの主体者として、 自己の願いを実現する子供～



高学年への
あこがれ

先輩である自覚
第3者視点

特別活動

メタな視座の醸成 質的スタンダード

教科



心の教育

異学年
学年
学級

全教科で
展開!

学校生活
道徳

子供によりそう教師



教育課程, 校内研修の輸出

令和3年度研究主題

子供が学びをつくる学校

～学びの主体者として、自己の願いを実現する子供～



子供の学びをつくる学校
～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～

子供が学びをつくる
課題設定
追究
パフォーマンス

メタ認知
メタて? 

メタ認知 Metacognition
私たちがしている「分かる」とする「活動」を
自分で「分かる」ようにして、捉えること。

- モニタリング
- 制御
- 評価
- 感覚
- 予想
- 点検
- コントロール
- 目標計画
- 修正

一人ひとりの子供が自分を
見つけるインクルーシブな支援

子供の文脈
実生活

見通し
自分事

系統性

保障

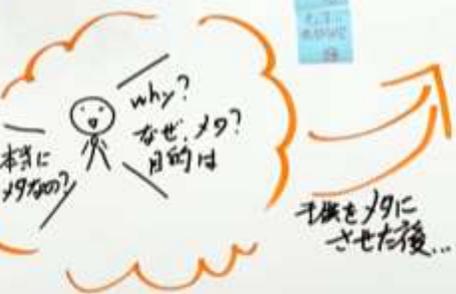
自分の考え

自己評価

相互評価

おかしな
ツギ 

動画視聴
価値づけ
手立ての根拠
メタの整理
全体共有



教科の本質

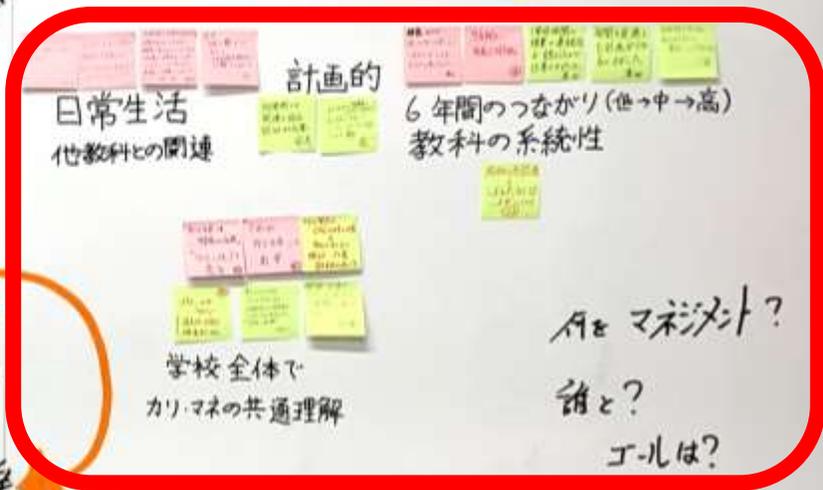
・鉄棒ができる
具体的な姿

適切な支援

一人一人の
個別の支援

目指す姿 ↔ 見取り

学びの文脈をつくる **カリキュラム**
カリキュラム・マネジメントの共有



教師が俯瞰
深い教材理解
見える化

客観視

自己をメタ認知する。
(メタな視座)

自分の行動・思考を
モニタリングしようとしている。

集団の中での自己を
捉えたり、集団の特徴
を捉えたりする。

課題追究
解決方法を目的に応じて
選択し、追究できる。

高学年

課題設定
日常生活と学習内容を結び
付けて、問いをもっている。

パフォーマンス
目的に応じて自分の考え
が伝わるよう表現できる。

他者と自分を比較して、
自己を捉えようとする。

活動が成功・失敗した理由に
気付くことができる。
・ 活動の順序
・ 目的と活動の一致度合い。

課題追究
自分の思いや考えが明確になるように説明
したり表現したりする方法を身に付ける。

中学年

課題設定
日常生活や経験したこと
などから、問いを見出し
たり、選んだりできる。

パフォーマンス
自分の思いや考えが明確
になるように説明したり
表現したりする方法を身
に付ける。

他者の思いや考えを
受け止め、理解しよ
うとする。

メタ認知を促進し、
その基盤となる。

自分がしているこ
と、したことを言
葉等で表現する。

課題追究
問題状況を解決する個人
及び小集団の方法の獲得

低学年

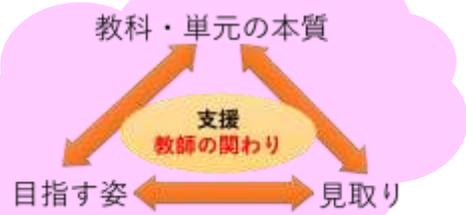
課題設定
身近なことや経験したこ
となどに、問いをもとう
としている。

パフォーマンス
自分の思いや考えが明確
になるように説明したり
表現したりしようとする。

自分の思いが他
者に伝わっている
かどうか考える。

他者意識

教師の支援の構造



子供が学びをつくる



☆ 自己を見つめ、目的や見通しをもつための支援

プランニング

- ・ゴールのイメージ
- ・追究の視点や方略のイメージ
- ・自己のイメージ

子供の願い

学ぶ必要感

☆ 自己を見つめ、到達度や学び方、役割を捉えるための支援

モニタリング

軌道修正

子供が判断・決定

試行錯誤

☆ 学びや考えを修正するための教師や友達との関わり

コントロール

子供が実現！

内容の関連

活用・応用

次なる学び